

1. 調査報告概要表

作成日 平成21年 4月21日

【評価実施概要】

事業所番号	1093100012
法人名	社会福祉法人 もくせい会
事業所名	めいわCOMハウスグループホーム
所在地	群馬県邑楽郡明和町大輪1768 (電話) 0276-55-8058
評価機関名	特定非営利活動法人 サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大友町2-29-5 コミューン100-1B
訪問調査日	平成21年3月25日

【情報提供票より】(21年3月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 1 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	6 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 7.35

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2 階建ての, 1 階 ~ 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,400 円	

(4) 利用者の概要(3月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	6 名	女性	3 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5		要支援2			
年齢	平均 84 歳	最低	73 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小西医院 館林厚生病院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利根川沿いの自然に囲まれた環境の中で、利用者の今までの生活を尊重しながら、人間として当然な欲求を安心して表現してもらい、生活の楽しみが見出してもらえるよう支援しているホームである。職員はホームが利用者にとって安心できる居場所になるよう意見交換を繰り返し行っており、利用者寄り添いながらの関係作りを実践している。地域との関わりも、ここでの実践が地域の高齢者福祉に貢献できるものにしていきたいという思いで重視している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価を検討し、改善に向け実行しているが、ケアプランについては引き続き検討して行く方向である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価の内容を全職員に知らせ、管理者が中心になって意見を聞きながらまとめた。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議がスムーズに進行できるようあらかじめ1年間の内容をホームで提示し、2ヶ月に1度のペースで実施している。地域の役員だけではなく、議題によって関係者にも参加を依頼しており地域ネットワーク作りに繋がっていけるよう願っている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族がホームでの状況をありのままに理解してもらえるよう、記録を開示し、場合によってはコピーも渡している。担当職員が小まめに電話でも連絡しながら要望や意見を聞くようにしている。利用者も家族も安心してもらえるよう話を丁寧に聞き、出された意見を実現するようオープンな運営を心がけている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>納涼祭や防災訓練などの行事には区長や住民も参加してもらっている。地域から「ホームともっと関わりたい」という声も出されており、地域のネットワークや協力員体制ができるよう今後も関わりを深めていきたいと考えている。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスに移行してから設立したホームで、理念は設立時に職員が話し合っで決めた。地域との関わりは行事等を通じ、常に意識しながら関係を深めていく姿勢である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の業務において「何を中心におくのか」を職員間で話し合いながらサービス提供を心掛けている。利用者のそれぞれの思いに寄り添い実現できるケアを目指している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	納涼祭や防火訓練には区長や住民に協力してもらい実施している。地域からもホームとの関わりを望む声が上がっており、今後は地域住民と協力体制が組めることを検討したい。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回評価で課題となっているケアプランについては、引き続き改善に取り組んでいる。自己評価については全項目を職員に知らせ、職員の意見を聞きながら管理者がまとめた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1度開催している。内容についてはホームが1年間の計画を立てている。会議での取り組みを通じ、地域を巻き込んだネットワーク作りも意識していきたいと考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	行政との関係は会議以外でも電話やEメールで情報交換できる関係になっている。町が来年度計画しているサポート作りにも協力依頼が来ており、積極的に参加していきたいと考えている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	家族の面会は比較的多いため、その都度生活の様子を知らせている。また、必要に応じ、記録を開示しコピーも渡しながら報告しており、ホームの状態を理解してもらえるようにしている。		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	利用者に対して職員は担当制を組んでおり、家族へはこまめに連絡したり要望を把握するように努めている。家族には運営推進会議にも参加してもらっているが、ホームとしては不満が出る前に家族からの意見を丁寧に聞くことを前提にしており、利用者にとっても家族にとっても安心できるオープンな運営を心掛けている。		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	職員の異動はほとんどない。看護面では、法人内の看護師に相談している。		
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	職員は共通知識として基礎研修を受けるようにしている。さらに実践者研修も同様に行きたいと考えている。具体的な場面ごとに、ケアにおいては「何が大切か」を意識した話し合いやアドバイスを職員の間で行っている。		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	他のホームへの派遣や職員の受け入れを通じ、同業者との交流を行うようにしている。来年度は近隣の同業者との勉強会も予定されており、参加していきたいと考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ショートステイや老人保健施設からの入所者もいるが、見学や食事など数回の体験を実施したうえで、なじみながらの利用を進めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	それぞれが歩んできた人生を尊重し、経験が生かせるような時間を過ごしてもらえよう、利用者との関係作りに努力している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	直接話を聞くことはもちろん、表情や何気ないしぐさにも注目したり、アセスメントシートを利用しながら、どんな暮らしをしたいのかを職員は話し合い、思いを実現できるように支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意見を取り入れながら、職員で話し合いながら、その人本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画に沿った生活の様子は一週間単位の観察シートをもとに見直しはしている。期間については3～5ヶ月で不定期である。	○	定期的見直しの実施やモニタリング記録等の改善をしていきたいと考えており、改善実施に向けての姿勢に期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	一人ひとりの要望に合ったサービスを提供することは当然のことと捉え、通院も家族に同行したり、動物を飼ったり、ホーム以外での活動の場も設けるようにしている。職員は自己判断に困る時以外は、利用者の思いをくみ取り積極的に柔軟に支援できる状況にしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者それぞれのかかりつけ医を主治医としている。月2回は協力医による往診も行われており、必要に応じて相談できる体制になっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた方針については、入所時に説明しているが、その時々状況に応じ相談しながら確認している。家族と協力医の協力が得られれば、ターミナルケアも実践していきたいと思っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	各利用者のプライバシーと思いを重視するよう心がけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家庭的な環境が落ち着ける人、会社生活が長かった人などそれぞれが過ごしてきた生活のペースを大切に、希望に沿った過ごし方ができるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホーム独自の献立で、参加できる利用者は準備・配膳・後片付けを一緒に行っている。季節の食材を取り入れ、職員も一緒に食卓を囲み、のんびりと会話しながら食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日午前中に入浴の支援を行っている。状態に応じて職員2名で対応したり、デイサービスの機械浴を利用したり利用者が気持ちよく入浴できる状況を提供している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個人個人の思いや楽しみが何なのかを見出して、実現できるよう支援している。ホームでの役割も自然とできており、やりがいを持って積極的に動いている様子が見える。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	3日に1度は買い物に出かけ、自由に畑に出かけることもできる。希望に応じて日常的に外出するようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物の構造上、玄関は暗唱キーを押さないと開かないが、いつでも要求に応じて外に出られるよう支援している。建物の南側にあるドアは日中は開放しており、自由に外に出られるため、館内は閉塞感がない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の役員にも協力してもらい防災訓練を実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事量はチェック表を用い、必要量を確保するよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るい館内には利用者が摘んできた季節の花を飾ったりしながら、居心地良く過ごせるようになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はそれぞれの個性を活かし、ペットを飼ったり、こざっぱりしていたり独自の空間になっている。		